

孀恋郷土資料館 館長が交代

新館長に黒岩秀二さん

このほど孀恋郷土資料館の館長が交代しました。これまで館長を務めてこられ、資料館発展に尽力いただいた滝沢仲二さんが三月三十一付をもって定年退職。そして今回、四月一日付で新しく館長に就任したのは、黒岩秀二さんです。これまで農林振興課参事で、農業委員会事務局長の要職を務め、かつて、それ以前は資料館館長も歴任し、今回が二度目。以前、館長時代には、ボランティアガイド制度を構想し、その養成講座の準備に着手するなど、資料館を運営していく上で経験も豊富。本年、資料館開設 30 周年の佳節を迎えるにあたって、黒岩新館長の再登板には、各方面から大きな期待が寄せられています。

..... ○

..... ○



新館長あいさつ

この四月一日、孀恋郷土資料館の館長に就任いたしました黒岩秀二です。大変な重責ではありますが、全力をもって、誠心誠意、職責を果たしてまいります決意で「させていただきます。皆様にはどうぞよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

また、郷土資料館友の会、なかでもボランティアガイドの皆様、高山蝶や、溶岩樹形など文化財の保護活動に携わっていただいている皆様、並びに「さゆみの会」の皆様等々には、平素から資料館の繁栄・発展に対しまして、ひとつ方ならぬご理解とご協力を賜っておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

さて、天明三年（一七八三）の旧暦七月八日昼の四ツ半、今でいえば八月五日の午前十一時、浅間山北麓の村々を襲った我が国史上、最大級の噴火災害から、今年はずいぶん二百三十年になります。そして昭和五十四・五十五・五十六年度、「浅間山麓埋没村落総合調査会」による発掘調査が行われ明らかになった天明三年浅間焼けの噴火と災害に関する資料、それらを中心に展示・解説する施設として孀恋郷土資料館がオープン（昭和五十八年十月）してから、今年で三十周年を迎えます。この間、当資料館の入館者数を見ると、累計で一〇万人にも達し、これは、小規模な資料館ながら、他の資料館・博物館などと比べると、際立って入館者の多いミュージアムということになります。これも関係各位のご協力、ご努力の賜物と感謝いたしております。

年々内容が充実の度を増してきていると言われる当資料館ですが、今後も来館者のために役立つ教育・文化の施設として、特に天明三年浅間焼けに関する資料を中心に考古、歴史、自然、文化等の資料をさらに積極的に収集し、展示などを一層充実させて、一人でも多くの人にご利用いただけるよう努めてまいります。重ねて皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。

平成24年度孺恋郷土資料館友の会総会

平成24年度孺恋郷土資料館友の会(土屋澄孝会長)の総会が3月30日午後、同資料館で開かれました。ここでは、土屋会長のあいさつの後、24

資料館開設三十周年の佳節に向けて

年度の事業報告が行われ、4月のボランティアガイド打ち合わせ会議を皮切りに、田村喜七郎氏によるボランティアガイド養成講座「信州街道と沓掛街道について」、同じく宮川富士夫氏による「草軽電鉄の遺構を訪ねてみよう」のほか、関俊明氏が講師を務める連続講座「もっと知りたい天明3年の話」、郷土資料館恒例行事の一つ第16回「お月見の会」、秋の村外研修などの諸行事が報告されました。

また、25年度の事業としては、資料館が開設30周年の佳節を迎えることから、「友の会教養講座」、村内・外研修会の実施、史資料の収集活動など活発に推進していく旨、話し合われました。さらに

記念事業については、今後、「記念事業実施委員会」を設けて検討していくこととなりました。

記念事業実施委員会を開催

孺恋郷土資料館開設30周年記念事業の第1回実施委員会が4月27日の午後、同資料館で開かれました。これには新任の黒岩秀二館長も出席。同館長は就任のあいさつの後、資料館開設のいきさつなどに触れ、30周年記念事業の計画案をみんなだてまとめあげ、積極的に取り組んで資料館大躍進の1年にしていきたいとの決意を述べました。このあと、実施委員会会長に選任された土屋澄孝



会長を中心に、①記念文集の刊行 ②記念講演会の開催 ③企画展の開催 ④村民教養講座の開催 ⑤ビデオ(DVD)「天明3年浅間焼け」のリニューアル、等々について協議しあいました。